

PRIMERGY RX800 ご使用上の注意

このたびは、弊社の PRIMERGY (プライマジー) RX800 をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。ご使用になる上での注意点がありますので、本書をよくお読みの上、ご使用ください。

2004 年 3 月
富士通株式会社

(1) 『ユーザーズガイド』記載内容の訂正

訂正箇所：P54 の手順 19

入力するコマンドに、数箇所スペースを入力するように記述されていますが、以下のとおり、スペースは 1 箇所のみ入力してください。

```
A:¥>spman -cmda=0xE002,0x1440,0,0, <システム管理ポートの IP アドレス>  
      スペース
```

(2) SCSI アレイコントローラカード (PG-142D) をご使用の場合

SCSI アレイコントローラカード (PG-142D) をご使用になる場合には、SCSI アレイコントローラカード (PG-142D) に対して、以下の設定を行ってください。

設定項目	設定値
EBDA Relocation	Enable(Check)

POINT

- ▶ 設定方法については、SCSI アレイコントローラカード (PG-142D) に添付の取扱説明書を参照してください。

(3) SCSI アレイコントローラカード (PG-142E) をご使用の場合

POST 中に以下のメッセージが表示されますが、エラーを示すものではありません。

```
Failed to get real-memory thru PMM.  
BIOS will use conventional memory of its own.
```

(4) ServerStart を使用してインストールした場合

ServerStart を使用して、Windows Server 2003 または Windows 2000 Server をインストールした場合、古いバージョンの RAS 支援サービスが自動的にインストールされます。

『ユーザーズガイド』の「6.1 RAS 支援サービス」を参照して、新しいバージョンの RAS 支援サービスを PRIMERGY ドキュメント&ツール CD からインストールしてください。

POINT

- ▶ 古いバージョンをご使用になると、交換の必要のない部品に対して寿命警告が表示されることがあります。

(5) リモートサービスボード用 AC アダプタについて

本サーバに標準搭載のリモートサービスボードには、AC アダプタを接続しないでください。

ServerView によるサーバの監視ができなくなる場合があります。

(6) ServerView による CPU 表示について

ServerView コンソールの「ベースボード」画面で、搭載されている CPU の一部が表示されない場合があります。CPU が正常に認識されているかは、「環境」画面で各 CPU の温度 () の値が表示されていることを確認してください。

なお、本現象は表示のみの問題であり、その他の機能については問題ありません。

本現象は、以下のどちらかの方法で復旧できます。

- ・システムを再起動し、電源オフ / オンを行う。
- ・復旧ツールを使用して、以下の操作を行う。

サーバ本体に添付の、Server Management Tool フロッピーディスクを準備します。

「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

「名前」に以下のように入力して、[OK] をクリックします。

```
A:¥svtool¥SvRecovery¥SvRecovery.bat
```

約7分で、復旧処理が完了します（コマンド実行画面が消えます）。

(7) ServerView の自動再起動

システムが高負荷状態のとき、ServerView でサーバを監視できなくなる場合があります、以下のメッセージ（警告）がイベントログに通知されます。

```
イベントログ（アプリケーション）
ソース名：ServerViewAgents
種類：警告
イベント ID：10610
説明：Communication with the server management controller in cabinet 0 of server xxxx lost. （xxxx は、サーバ名）
```

本現象は、以下のどちらかの方法で復旧できます。

- ・システムを再起動し、電源オフ/オンを行う。
- ・ServerView を、手動、または自動で再起動する。

【手動で再起動を行う場合】

「スタート」ボタン 「プログラム」 「Fujitsu ServerView Agents」 「Diagnostic Tools」 「Restart ServerView Base Services」の順にクリックします。

「Search for management hardware」を有効にして、[Restart] をクリックします。

【自動で再起動を行う場合】

自動再起動ファイルを、以下のディレクトリ直下にコピーします。

```
ファイル名：SvRestart.bat、sleep_tool.exe
ディレクトリ：%SystemDrive%¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBAG01
```

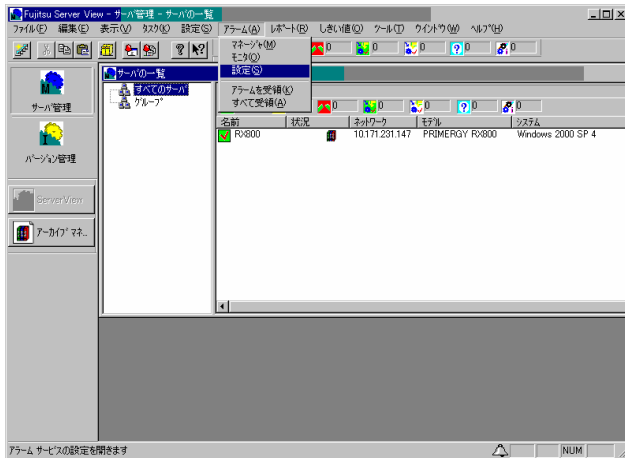
自動再起動ファイルは、以下にあります。

[サーバ本体に添付の Server Management Tool フロッピーディスク]: ¥svtool¥SvRestart

サーバ一覧の確認

ServerView を起動し、サーバの一覧に監視対象とするサーバが表示されていることを確認します。

一覧に表示されていない場合には、サーバの一覧に追加してください。



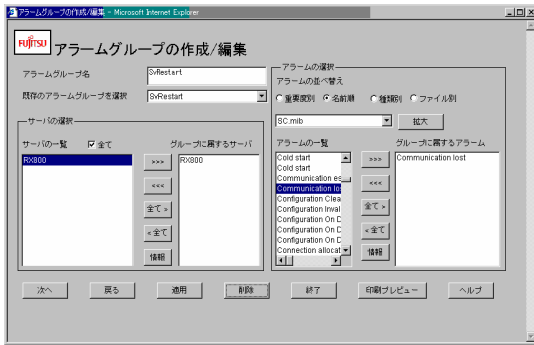
POINT

- ▶ 登録後にサーバ名または IP アドレスの変更を行った場合、サーバ一覧の再設定が必要です。

ServerView AlarmService の設定

1. 「アラーム」メニューの [設定] をクリックします。
ServerView AlarmService の設定画面が表示されます。
2. 「アラームグループの作成/編集」をチェックして、[次へ] をクリックします。

「アラームグループの作成/編集」画面が表示されます。



【項目設定値】

アラームグループ名
SvRestart を入力します。

サーバの選択

グループに属するサーバに、対象とするサーバ（例：RX800）を選択します。

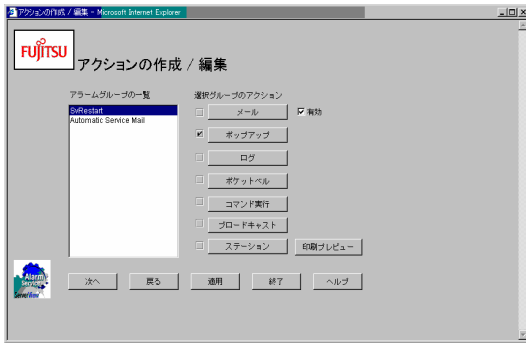
アラームの選択

グループに属するアラームに、対象とする Trap「Communication lost」を選択します。

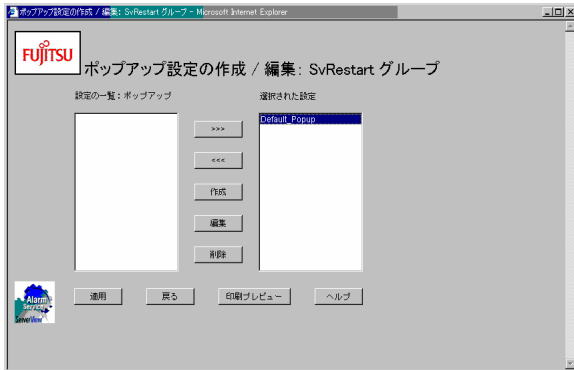
【項目設定方法】

1. 「アラームの並び替え」で「ファイル別」をクリックし、リストボックスで「SC.mib」を選択します。
2. 「アラームの一覧」のリストボックスから「Communication lost」を選択し、[> > >] をクリックします。

3. [適用] をクリックし、[次へ] をクリックします。
「アクションの作成 / 編集」画面が表示されます。



4. [ポップアップ] をクリックします。

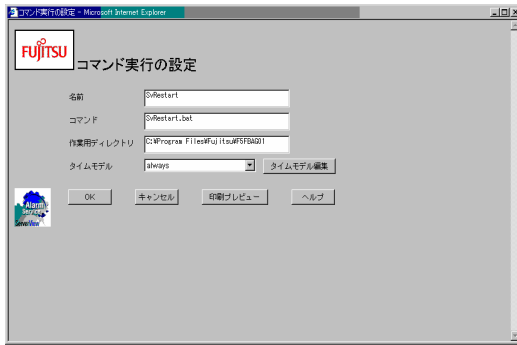


5. 「Default_Popup」を選択し、[<<<] をクリックします。
6. [適用] をクリックし、[戻る] をクリックします。
「アクションの作成 / 編集」画面に戻ります。
7. [コマンド実行] をクリックします。

以下の画面が表示されます。



8. [作成] をクリックします。
「コマンド実行の設定」画面が表示されます。
9. ServerView の再起動コマンドの設定を行います。



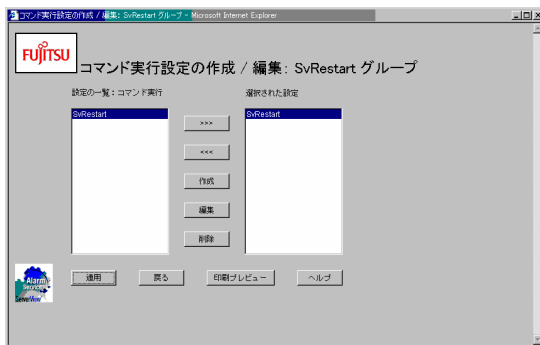
【項目設定値】

名前
例: SvRestart

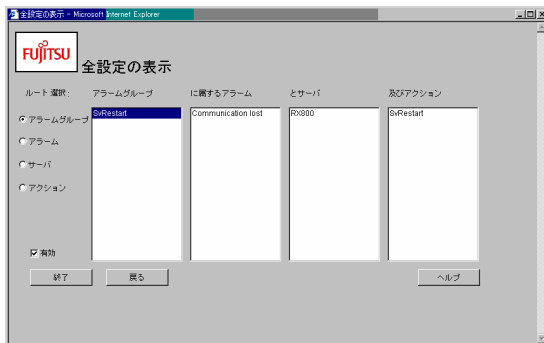
コマンド
SvRestart.bat

作業用ディレクトリ
%SystemDrive%\Program Files\Fujitsu\F5FBAG01

10. [OK] をクリックします。
「コマンド実行設定の作成 / 編集」画面で、作成した名前が選択されていることを確認します。
11. [適用] をクリックし、[戻る] をクリックします。
「アクションの作成 / 編集」画面に戻ります。



12. [次へ] をクリックします。
以下の画面が表示されますので、全設定の確認をしてください。



【項目設定値】

アラームグループ
作成したアラームグループ「SvRestart」が表示されます。

に属するアラーム
選択した Trap「Communication lost」が表示されます。

とサーバ
選択したサーバ名(例: RX800)が表示されます。

及びアクション
作成したアクション名「SvRestart」が表示されます。

以上の項目が正しければ、ServerView AlarmService の設定は終了です。

13. [終了] をクリックし、「アラームの設定」画面が表示されたら [終了] をクリックします。
14. ServerView AlarmService 画面と ServerView 画面を終了します。

